

開催期間:

2012年 7月 5日

一回目の送付の際は文字は黒で 2回目以降は修正部分を赤字にしてください

スタッフ:

20Members

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

支援者:

札幌市教育委員会      札幌市PTA協議会   並びに札幌市の小中学校

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

予算:

5, 444US dollar

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

利益／損失:

None

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

誰の為に？

アフリカでマラリアに苦しむ人々。  
札幌に在住の小中学生31万人のため。

主語を忘れないように「我々 JCIOOは、」「我々委員会は、」です。

## 目的:

①我々JCI 札幌の目的は、次世代を担う札幌在住の小中学生に、PositiveChange を起こすことです。  
彼らに自国他国の現状と違いを学ばせます。  
彼らに国際社会の当事者であることを自覚させます。  
そして国際社会に対して貢献できる人に変化させることです。

②アフリカのマラリアその他疾病の蔓延防止するための行動をおこします。  
JCI札幌はUNMDGs達成を目指します。  
Nothing But Nets を札幌に普及させ定着させます。  
結果、継続的な募金活動が出来るシステムを札幌の地域に作り上げること。

## 目的:

最初に目的、後半に背景説明を簡単に書いて下さい。

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

**概要:**

①自国と他国の違いを知る教材として、UNMDGsを採用しました。  
国連ミレニアム開発目標セミナーを、札幌市内の小学校2校、中学校1校で受講させました。  
同時に、多くの国籍の異なる外国人との討議の場を作りました。  
討議を通じて、自国と他国の違いを理解してもらいました。

②目標の6番目 HIV／エイズ、マラリアその他疾病の蔓延防止  
明日から出来るアフリカのマラリア蔓延防止について考えました。  
マラリア及びその他の主要な疾病の発生を2015年までに阻止し、その後発生率を下げるために、マラリア防止用の蚊帳を送付するシステムをつくる  
ことが必要と判断し、Nothing But Nets の推進をすすめることにしました。

全部で400字以上

主語を忘れないこと、単語は7つ以下で1文とすること

結果をキチンと確認しないとココは書けません。  
解らない場合はすぐに関係者、参加者にアンケートをとり  
関係者からのプラスとマイナスの評価を入手して下さい。

## 結果:

①小中学生の理解状況は下記の通りである。

【自国と他国の違い】

理解できた 87.15%

理解できなかった 12.85%

【国際社会への貢献の必要性】

MDGsの内容が理解できた 100%

コメント一部

- ・世界で何が起きているのかを改め知った
- ・マラリアで・マラリアで・マラリアで45秒に1人が死んでいるとう現実を知った
- ・この授業を通して初めてMDGs存在知る事が出来た
- ・自分たちの環境と世界の現状があまりにも違う事を知り、世界に何かしなければいけないとの意識が強くなった
- ・自分たちだけが平和なのは悔しいので、世界中が平和になってほしいと思った。

【外国人との討議に対して】

積極的になれた71.36%

消極的だった 28.65%

今まで知らなかった世界を知れた 90.04%

英語能力の不足を感じた 84.23%

交流した外国人の国をもっとしりたくなった 64.31%

コメント一部

- ・今まで知らなかった世界を知ることができたので、交流した外国人の国をもっと知りくなった。
- ・「この環境で学習出来るころは本当に素晴らしい」と言われ、自分たちの日常が決して当たり前でない事を実際に感じた。

UNMDGsを周知した結果。

札幌の中学生の一人が希望して国連に行きました。

彼女は「世界の現状」に関して学んできました。

彼女は国連で学んだ体験を、他の生徒に伝えました。

②ナッシングバッドネッツの自販機が札幌市内に18台設置しました。66,428円の募金が出来た。  
JCI 札幌のゴルフ大会にて、NOTHING BUT NETSキャンペーンのチャリティーイベントを行った。  
結果  
75,000円を集め、公益社団法人日本青年会議所へ寄付しました。  
2013年も、継続してゴルフ大会で、NOTHING BUT NETSキャンペーンのチャリティーイベントを行う予定。

UNMDGsのセミナーを受けた小中学生241人にアンケート実施した結果より判断  
自販機の設置台数は、アサヒカルピスヴィバレッジ(株)北海道支社調べ

検証結果を簡潔に書いて下さい

主語を忘れないこと、単語は7つ以下で1文とすること

## 行動:

2011年 12月20日 委員会にて、地域の現状の把握と運動の経緯の確認  
(子供たちに何を伝えるのか、何を变えるのかを検討開始)

2012年 1月16日 教育委員会打ち合わせ  
3月27日 打合せに基づいた手段の確認  
3月 7日 参加校募集開始  
4月30日 参加校・参加者締切  
5月22日 参加校と事前準備打合せ  
6月 5日 メンバーに事業内容配信 (MDGs・Nothing but nets 資料を配信)  
6月23日 メンバーに対し事前学習  
(JCI札幌メンバーがMDGsのセミナーを受けました。)  
7月 5日 実施  
10月28日 効果の検証① セミナーを受けた小中学生にアンケートを実施  
12月31日 効果の検証②  
Nothing bat nets に関わる自販機の設置台数と募金額の集計結果を確認

全部で200字以上  
2000字以内程度

2013年7月5日  
11:00 開会  
11:01 歓迎挨拶 札幌日本大学中学校 校長  
11:06 主催者代表挨拶 2012年度社団法人札幌青年会議所 理事長 林 将告君  
11:06 生徒代表挨拶  
11:10 歓迎オリエンテーション  
11:49 移動  
12:05 自己紹介  
12:35 昼食  
13:25 国連ミレニアム開発目標プログラム  
14:30 記念の色紙への記入  
14:50 記念撮影  
14:55 閉会  
15:00 記念撮影 解散

## 考察や推奨

①UNMDG'Sは、説明を受けた小中学生の80%以上が理解できた。  
そして、国際社会へ貢献が必要であることは100%理解できた。  
(アンケート結果より、今回のセミナーにおいて)  
そして彼らが、Positive Changeするきっかけを我々は与えることで来た。  
その結果の一つとして興味をもった学生がNYの国連でのプログラムに参加しました。  
帰国後、その体験を自分自身の学校の生徒に伝える事ができた。  
毎年継続して、国際社会への貢献が意味と、その必要性に関して学生に伝えることが重要。

②Nothing But Netsの自販機設置は継続的に進行中。  
2013年も、既に3台が追加設置された。  
ゴルフ大会でのチャリティイベントも継続して実施されている。

UNMDGsの周知に関して、外国人と共に実施したので、画像や動画で見るとよりも、現実的な話が聞けたことが、アンケートのコメントを見ても効果的であった事がわかった。

アンケートより

- ・アフリカということだけで飢餓や貧困というイメージを持ってしまっていたが、実際にその国の話を聞くと違う面を聞くことが出来た。
- ・私たち(中学生)の発表に真剣に耳を傾けてくれた。若いのだから考えた事はどんどんチャレンジするべきだと言われた。世界が少しだけ近くに感じられた。
- ・こういった世界共通の目標にこれまで触れることもなく、今回の授業がなければ知らずに大人になっていたと思うと、なぜ教育できちんと取り上げないのか疑問を感じると同時にこの機会に恵まれた自分は幸せだと思う。

以上より、セミナーを受けた小中学生が、自国と他国の違いを理解できている。

今後MDGsの活動に協力する言動が多くでている。

アンケートより

- ・JCIの自販機を見つけたら絶対買おうと思いました
- ・改めてアフリカなどの現状を知り、助けなければいけないと思いました



- ・早く MDGs の目標が達成されてほしい
- ・過去に自分で調べていた状態とあまり変わってなかったので、5 年・10 年後くらいには昔に比べても良くなったと言える世界をつくりたい。

セミナー実施前の外国人に対するイメージ 無関心:21.18%  
実際に外国人に会って話を聞いた結果 無関心:4.9% となった  
直接外国人と会い、セミナーを実施できたことで、札幌の小中学生がポジティブチェンジを、より効果的であった。